

---

# とある佐天の0.0.0.0 (ラストリゾート)

abs

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある佐天の0・0・0・0（ラストリゾート）

### 【Nコード】

N4485BA

### 【作者名】

abs

### 【あらすじ】

佐天さんが能力に目覚めたら。その設定。今回は、ラストリゾートという用語を使ったかっただけ。

「うっいはるっ」

「はあ、佐天さんは進歩しませんねえ」

いつものようにスカートをめくると、初春は呆れたようにため息を付いた。

少し大人になった親友の横顔。子どもをあしらうような態度。そんな表情もいいなと思いつつながら、初春の横に並ぶ。

「初春の下着と一緒にだね」

もぐ、佐天さん。という声を聞きながら、学校までの道のりを楽しんだ。

「私、実は能力に目覚めていたんだと思うの！」

「またですか。今度はどんな能力なんですか？」

初春は訝しげながら、尋ねてくる。

自分がこんな能力持ってたらしいなっていう想像を、私は結構楽しんでる。

無能力者の特権だ。私は好きだけど、このふざけ話に付き合わされるのが、初春は嫌いなのかな。

まあ、関係なく話を進めるけどね！

「私、いろんな話を集めることができる！学園七不思議とか！」

「掲示板に書いてあることじゃないですか！」

それは、ネットサーフィンって言うんですよ。と物知りな初春は、上から目線で言うてくる。  
ぐぬぬ。

なんとかして、この話の活路を見出さねば！  
初春を納得させるのだ！

「ふふふ、舐めてもらっては困るよ、初春くん。私には風紀委員の知り合いがいるのだよ。その子に聞けば、いろんな事件を知ることができる」

ふふん。と最後に鼻で笑うことも忘れない。

「へへ、って風紀委員の知り合いって、私じゃないですか！」

事件のことは、漏らしませんよ！とか言っているが、私の聞き出すスキルを舐めないでほしい。そして、初春はよく話をうっかりして私に漏らしている。

「そう、第七学区で起こったことは、ほとんど知っているのだ！風紀委員の支部にも出入りしてるから！」

「自慢して言わないでください！支部は、くつろぐ場所じゃあ無いんですよ！」

風紀委員以外にしてください！と初春は駄目出しをする。

ふむ。なら、あの人をだそう。

「私の知り合いに、電子を扱えるスゴイ人がいる。その人にかかれば、どんなネットワークでも、ハッキングが可能だし、色んな電磁波を感じることができらしいから、調べようと思ったら、プライベートはなくなる！」

「それは御坂さんじゃないですか！御坂さんは、そんなことしません！佐天さんに頼まれても、するはず無いです！」

他人ばつかだして、自分の力はないんですか。と初春が言う。よし、自分の力を初春に見せるべきか。

「いや、初春。御坂さんはやってくれる。このゲコ太だね！」

ケロヨンの隣に住んでいるおじさん。その名もゲコ太！対御坂さん用アイテム！

「物で釣るんですか……」

でも、ネットワークが隔離された所とかは、入れないですよ。と初春は引き下がらない。

さすが、初春。私の認めた女。

「ふふふ、私の知り合いに「ちょっと、待ってください」「何よ」

「白井さんですか？」

「さすが、私の初春ね。その通りよ」

佐天さんの物になった覚えはありません。と初春は言う。  
きつと、心のなかではものすごく恥ずかしがっているはずだ。

「でも、無理です。白井さんは、物につられたりしません。風紀委員の先輩として、そのへんは、しっかりしています！」

初春は勝ち誇っている。初春、それでは駄目だ。  
戦いは勝てる状況になってから、始めるものなのだ。

「初春。ファミレスで私、何回、御坂さんのジュースをおかわり入れてきた？」

「えっ、それは、数え切れない、くら……い。まさかっ！佐天さん！」

「そう、私は对白井さん用アイテム、”御坂さんが使ったストロ―”を自然に入手できるのだよ！」

「……な、なんだってー！」「……」

「今の、誰？」「さあ？」

「佐天さん！犯罪じゃないですか！スト―カー幫助ですよ！」

「やだなあ、初春。純粋な恋愛の手助けって言ってほしいな」

そう！私は、純粋な乙女の味方！  
好きな人を聞き出し、アイテムをこっそりプレゼントなんかも出来るキューピット。

「はあ、佐天さん。分かりました。佐天さんは変なところに能力を使っています」

「いやあ、分かってくれた？私の話を集める能力は、伊達じゃないね！」

サムズアップを初春に向かってする。

初春も笑顔でサムズアップをし、そのまま親指を下げる。

「それで、今回の能力の名前はどんな名前なんですか？」

「うーん、いろんな人の愚痴を聞くから、ラストリゾートって名前かな」

「物は言いようですね、今日の話は、御坂さんに伝えますからね！」

「ちょっと、初春、待って！」

御坂さんのストローがバレたら、破綻する能力なのに！

「私たち、親友でしょ！」

「今日はデラックスパフェの気分です！」

うーん、出費が。

また、路地裏のマナーカードを拾いに行こうかな。

## (後書き)

ラストリゾートは、ネットワーク用語で、ルータが宛先のわからないパケットを送るIPアドレスで、0・0・0・0はルーティング情報で全てのネットワークらしいです。つまり、宛先のわからないものを、ちゃんとした場所にするためのものです。ここでは、佐天さんが、うわさ話を集め、それを解決できそうな人に渡す話です。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4485ba/>

---

とある佐天の0.0.0.0（ラストリゾート）

2012年1月12日00時48分発行